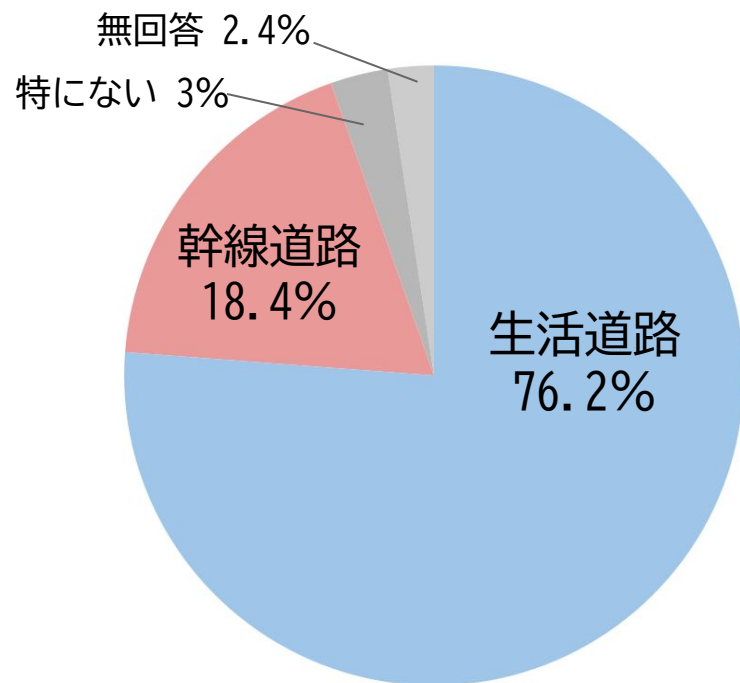


# 札幌市からの情報提供②



# 生活道路の除排雪に対する市民ニーズ

- 今後、除排雪に力を入れてほしい道路は、  
「生活道路」が7割超  
「幹線道路」が2割弱



「今後、特に除排雪に力を入れてほしい道路」

図 令和7年度第1回市民意識調査（札幌市）N=2,488



ザクザク路面が発生した「生活道路」



排雪作業後の「幹線道路」

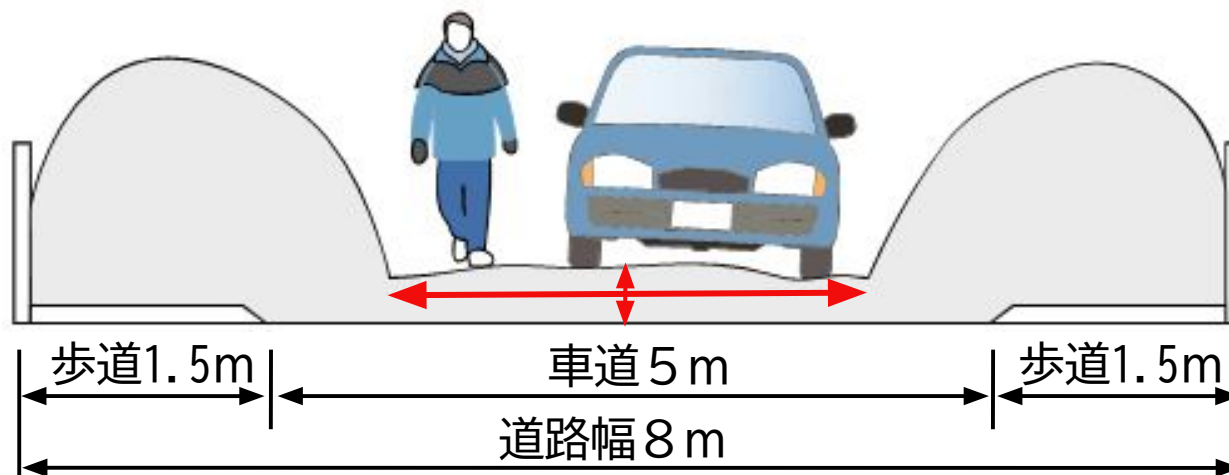
幹線道路：現状の除雪や排雪作業により、通行環境にも一定の評価  
生活道路：シーズン中の作業要望も多く、期待が高い

# 生活道路の現状の管理水準(大雪時を除く)

	圧雪厚 ↑↓ (路面の雪の厚さ)	通行幅 ←→
生活道路	30cm以内	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1車線 + 歩行空間以上 (概ね3.2m)</li><li>・ 緊急車両が通行できる程度</li></ul>

※大雪時を除き、目標としている確保すべき「圧雪厚」と「通行幅」  
通行幅は、狭くなった時でも概ね3.2mを確保

冬場の生活道路のイメージ (道路幅 8 m)



管理水準を下回らないように「除雪作業」を実施

# 除雪作業の種類と内容

## 新雪除雪（かき分け除雪）

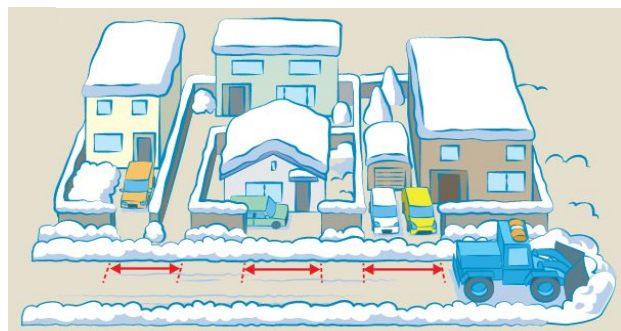
- ・通勤や通学時間帯をさけるため、深夜から早朝にかけて、一晩で一斉に路面の雪をかき分ける作業を実施

## 路面整正

- ・路面の凸凹や暖気によるザクザク路面が発生した場合、路面の雪を削り取る作業
- ・削った雪は出入口前を避けながら作業するため時間がかかる

## 拡幅除雪

- ・道幅が狭くなったときに道路わきの雪を積み上げる作業



新雪除雪のイメージ



路面整正のイメージ



拡幅除雪の作業状況

車両や歩行者の「通行環境」を確保

# 除雪作業による通行環境の確保(作業の一例)

## 除雪作業によるザクザク路面への対応イメージ

- ・ **暖気**でザクザク路面発生
- ・ 車両や歩行者の通行支障

- ・ ザクザク路面は改善
- ・ 道幅が狭くなる

- ・ 道幅が広くなる
- ・ 雪山が高くなる



路面整正

拡幅除雪



除雪作業は通行環境に対する「効果」や「影響」がある

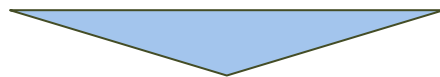
# パートナーシップ排雪制度の成り立ち

## 地域住民からの排雪要望

- ・ 札幌市では交通量の多い幹線道路の排雪作業は行っていた
- ・ 生活道路では排雪は行っておらず、除雪作業により、路面管理を行っていた
- ・ 排雪により、雪解けを早く迎えることができるなど、より快適な冬季生活環境が得られるため、地域から生活道路の排雪を望む声



生活道路の除雪状況（昭和50年代）



## パートナーシップ排雪制度（平成4年～）

- ・ 市民(地域)・除雪事業者・行政の三者が役割分担し、連携協力しながら生活道路の排雪を実施する。
- ・ 町内会などの利用団体と札幌市が費用を負担し合って排雪作業を実施



生活道路の排雪状況

# パートナーシップ排雪制度の役割分担と作業内容

## 三者の役割分担

### 市民（地域）

- ・ 地域内の合意形成・申請手続き
- ・ 地域支払額の費用負担

### 除雪事業者

- ・ 排雪作業の実施
- ・ 安全対策・日程調整

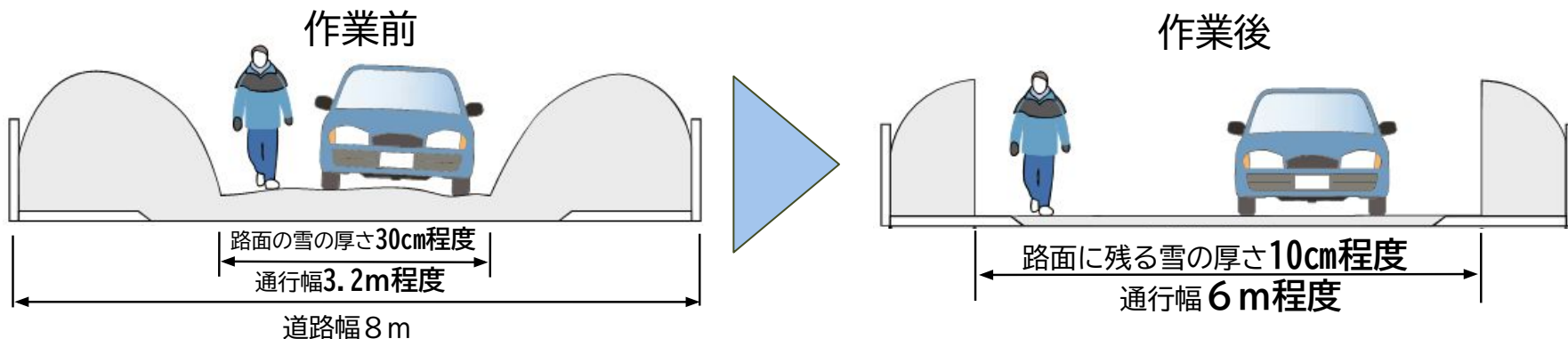
### 行政

- ・ 作業の指示・監督
- ・ 作業の費用負担



## 排雪作業の内容（道路幅8mの生活道路の一例）

- ・ 道路わきの雪山の一部と厚くなった路面の雪を道路上から運び出す



# 生活道路の「除雪」と「排雪」の位置付け

## 『除雪』 行政の役割

- 降雪状況や道路状況に応じて「新雪除雪」「路面整正」「拡幅除雪」を組み合わせながら、生活道路の管理水準を確保



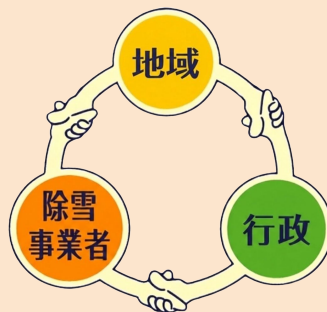
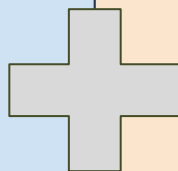
ゆきじい



管理水準を確保する  
ために行う  
標準的な作業なんだ

## 『排雪』 地域・事業者・行政 による協働の取組

- 雪解けが早くなるなど、冬季生活環境の向上を望む地域でのみ実施
- パートナーシップ排雪制度は、地域と行政が費用負担をし合いながら、生活道路の快適な冬季生活環境を創出



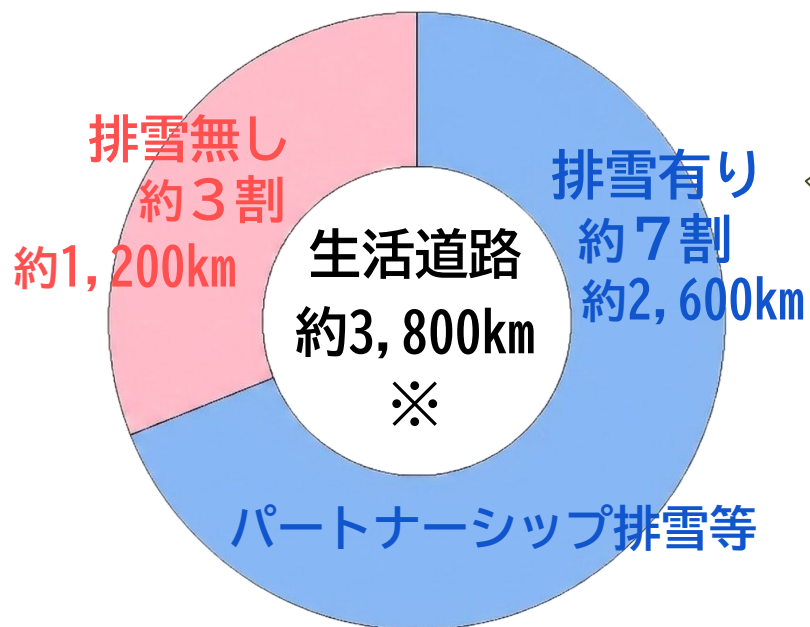
ゆきだるマン



パートナーシップ排雪  
は希望する地域で行う  
オプションの作業なん  
だね！

# 生活道路除排雪の現状と課題(パートナーシップ排雪制度)

- ・パートナーシップ排雪は生活道路全体の約7割の延長で利用されている
- ・約7割の生活道路に対して45億円(地域10億円+行政35億円)の費用をかけて実施



※ 除雪延長5,460kmから幹線道路など、市が排雪を行う道路延長を除いた値

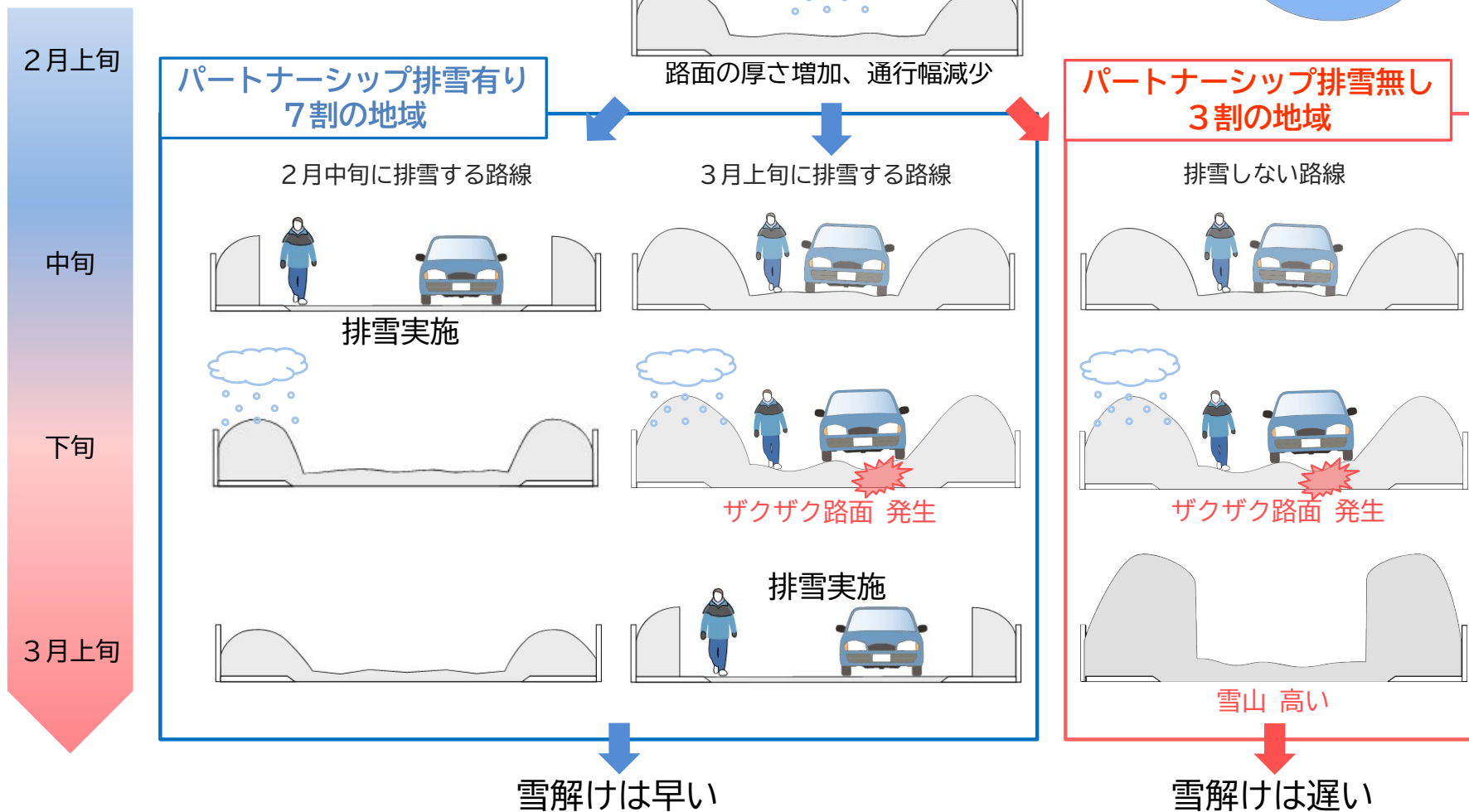
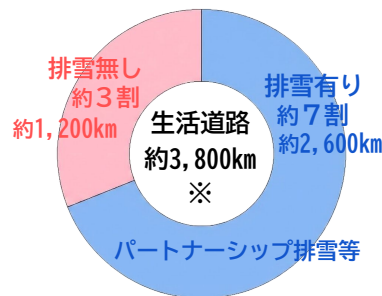


費用負担の割合は地域2：行政8

協働の取組として創設から30年以上が経過し、  
社会情勢や市民ニーズも変化してきている

# 生活道路除排雪の現状と課題（冬季道路環境の推移）

- ・ 2月上旬頃になると路面の雪の厚さが増加。通行幅も狭くなる
- ・ 排雪の有無や作業時期によって路面や通行幅などの地域差が大きい
- ・ 暖気によりザクザク路面が発生する場合もある



# 生活道路除排雪の現状と課題（道路の役割の多様化）

## 宅配事業や在宅介護サービスの利用増

- ・ 食品や日用品などの宅配、ネットショッピングの普及等により、宅配事業の利用が増加
- ・ 高齢化に伴い在宅介護サービス利用者数も年々増加傾向



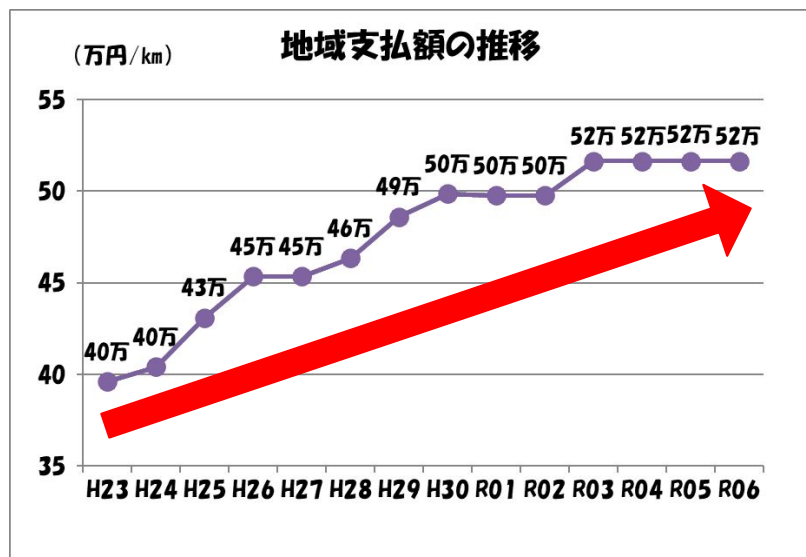
- ・ 沿線に暮らす住民以外が生活道路を通行する機会が増加
- ・ 生活道路の役割が多様化、除排雪に対する市民ニーズも変化

# 生活道路除排雪の現状と課題（費用負担と不公平感）

## パートナーシップ排雪制度を利用する地域が抱える課題

### 排雪費用の上昇

- ・ 労務費等の上昇に伴い年々増加
- ・ 地域支払額は平成30年度に50万円/km



※物価高騰など町内会活動の負担軽減を求める声を受けて、令和4年度から約52万円に据え置き

### 費用負担の不公平感

- ・ 町内会加入率は平成7年の8割弱から、令和7年には7割弱まで低下
- ・ 費用負担をする・しない世帯

年	加入率
1995 (H7)	77.46%
2005 (H17)	74.92%
2015 (H27)	71.54%
2025 (R7)	68.86%

※各年1月1日現在

- ・ 排雪費用の負担割合は、地域2：行政8（1団体あたりの地域支払額の平均は約100万円）
- ・ 地域と行政の双方にとって、排雪費用の上昇が大きな課題
- ・ 生活道路の排雪を全て行政の費用で行ってほしいという要望が多い

# 除雪ボランティアを行う団体等への支援等

## ■除雪用具の貸出制度

【( )内は令和6年度の実施件数】

- ・ 除雪ボランティア活動に使用する、スコップ、スノーダンプ、そり等は無償貸出  
(町内会、学校、企業、NPOなど52団体)

## ■小型除雪機の貸出制度

- ・ 自主的に地域の除雪を行う  
町内会等に無償貸出(40台)

## ■小型除雪機の購入補助

- ・ 補助額は購入費用の1/2まで、  
限度額は50万円(12件)

## ■公共用地を活用した雪置き場の開放

- ・ 町内会による雪置き場としての公園利用  
(1,609件)

※札幌市と覚書を交わし、利用上のルールを守る  
必要があります。



小型除雪機による地域の除雪



公園の利用

# まとめ

## □ 生活道路の道路管理の現状

- ・ 『新雪除雪』『路面整正』『拡幅除雪』により管理水準を確保

## □ パートナーシップ排雪制度の成り立ち

- ・ より良い冬季生活環境を希望する地域の声を受け創設
- ・ 創設から30年以上が経過し、様々な課題を抱える

## □ パートナーシップ排雪制度の現状・課題

- ・ 約7割の延長で利用（排雪される道路とされない道路）
- ・ 生活道路の冬季利用環境に関する市民ニーズの変化
- ・ 物価高騰等に伴う地域・行政の費用負担増加
- ・ 町内会加入率減少による、費用負担する・しない世帯間の不公平感

## □ 除雪ボランティアを行う団体等への支援等

- ・ 除雪用具の無償貸し出し、小型除雪機の無償貸し出し・購入補助等
- ・ 町内会による雪置き場としての公園利用